

令和6年度3学期始業式あいさつ

皆さん、おはようございます。そして、あけましておめでとうございます。

さて、今日から3学期が始まりました。今朝、皆さんが元気に登校して挨拶してくれる姿を見て、元気をもらいました。

皆さん、冬休みはどうでしたか？充実した時間を過ごせましたか？

「1月は往ぬる（行く）、2月は逃げる、3月は去る」とよく言いますが、3学期はあっという間に過ぎてしまう印象があります。ある脳科学者は「子供の頃の1年は充実して長く感じたが、大人になるにつれて、あっという間だ。それは経験が増えるにつれ、目新しさがなくなっていくからだ」と述べています。物理的な時間は1日24時間、1年365日、皆平等なはずなのに、時間って不思議ですね。

『ゾウの時間 ネズミの時間ーサイズの生物学ー』という本があります。1992年に東京工業大学教授の本川達雄先生が書いた生物学の本で、ベストセラーになりました。著者の本川先生は「サングのタンゴ」や「生き物は円柱形」とか、歌う生物学者としても有名な先生です。

本の中で「心拍数一定の法則」という話が出てきます。「息を1回スーッと吸ってパーッと吐く間に、心臓は4回ドクンドクンと打つことがわかる。これは哺乳類ならサイズによらず、みんな同じで、寿命を心臓の鼓動時間で割ってみると、哺乳類はどの動物でも一生の間に約20億回心臓を打つという計算になる。呼吸は約5億回スーハーッと繰り返すことになる。物理的時間で測れば、ゾウはネズミよりずっと長生きで、ネズミは数年しか生きないが、ゾウは100年近い寿命をもつ。しかし、もし心臓の拍動を時計として考えるならば、ゾウもネズミも全く同じ長さだけ生きて死ぬことになる。一生を生ききった感覚はゾウもネズミも変わらないのではないか」というのです。つまり、ゾウにはゾウの、ネズミにはネズミの時間があり、サイズによって動物たちはそれぞれ異なる自分の時間を持ち、その時間の中で生きている。一生の間に使用するエネルギーの量や、心臓の打つ回数、呼吸の回数は同じなので、サイズの小さい動物は全速力で、サイズの大きい動物はのんびり生きているというのです。

では、この『ゾウの時間、ネズミの時間』の視点で、皆さんの暇高での生活を考えてみましょう。皆さんの暇高での高校生活は、長い人生の中でたったの3年間、物理的な時間の長さは皆さん同じです。しかし、一人ひとりで見ると時間の使い方や感じ方はかなり違うと思います。皆さんはとても忙しい毎日を送っています。皆さんの中には、自分は限界近くまで頑張っていて、もうこれ以上は無理ですという人もいるでしょう。いや、まだまだ余裕があるという人もいるでしょう。

では、その中で、どうしたらより充実した楽しい暇高時間を過ごすことができるでしょうか？年の初めでちょうど良い機会なので、自分の時間の使い方についてちょっと考えてみてください・・・。

正解は残念ながらありません。最適解は皆さん一人ひとりの中にあると思います。大切なのは、高い志を持ち、高い目標を立てること、時間を自分でコントロールするこ

と、その中で仲間と高め合い成長することです。今年も、皆さんが、かけがえのない
暇高での生活を全速力で駆け抜け、充実した楽しい暇高時間を過ごすことを期待して
います。

さて、3年生の皆さんは、共通テストまであと10日あまりとなりました。緊張感
や不安感が高まっていると思います。でも心配はいりません。受験生はみんなそうで
す。伊坂幸太郎さんの小説に『逆ソクラテス』という作品があります。その中に、「ア
ンスポーツマンライク」という小学生のバスケットボールの短編小説が出てきます。
最終クォーター、残り時間はあと1分、3点差で負けていて、相手チームがタイム
アウトをとる。そこで、コーチは、「バスケットボールの世界では、残り1分を何と
いうか知っているか。永遠というんだ」とアドバイスを送ります。では、この「バス
ケットボール」を「受験」に置き換えてみましょう。77期生の皆さん、「受験の世界
では、残り1分を何といるか知っていますか。永遠というんだ」勝負は下駄をはくま
でわかりません。最後の最後まで自分の可能性を信じて、自分がやってきたことを信
じて、リラックスして臨んでください。3年生の下足室には、楠葉会からの贈り物の
巨大な合格祈願の招き猫が置かれています。とてもご利益があるので、願をかけて、
大切にしてください。

では皆さん、健康に十分留意して充実した楽しい3学期にしましょう。